

8020 達成率調査
《報告書》

平成 22 年 3 月
仙 台 市

【目次】

I. 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
II. 調査結果の概要	2
1. 対象者の属性	3
2. 歯および口腔の状況	
(1) 「80歳で20本以上自分の歯を有する者の割合の増加」の達成状況	3
(2) 現在歯及び喪失歯の補綴の状況	4
(3) 歯周組織の状況	4
(4) 口腔清掃状態	5
3. 歯科保健行動等	
(1) 現在の健康状態	5
(2) 食生活及び喫煙の状況	6
(3) 歯科保健行動等	6
(4) 口腔機能の状況	7
4. 8020達成者と非達成者の口腔内状況および歯科保健行動等について	
(1) 8020達成者と非達成者の構成	8
(2) 口腔状況について	9
(3) 歯科保健行動等について	9
(4) 口腔機能の状況について	10
5. まとめ	11
歯科健康診査表	12

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本市の健康づくりの基本計画である、いきいき市民健康プラン（平成 14 年 3 月策定）では、「歯・口の健康づくり」を重点分野として位置づけ、ライフステージに応じた歯と口の健康づくり対策の推進に取り組んでおり、平成 22 年度に最終年度を迎える。

今回の調査は、いきいき市民健康プラン策定時に設定した指標「80 歳（75～84 歳）で 20 歯以上有する人の増加」の達成状況を明らかにするとともに、仙台市における高齢者の歯と口の健康の実状を把握し、今後の歯科保健施策推進のための基礎資料を得ることを目的としている。

なお、達成状況については、いきいき市民健康プランの中間評価のために平成 17 年度に実施した「8020 達成率調査」結果を併せて示し、この間の推移をみた。

2. 調査の概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地区 | 仙台市全域 |
| (2) 調査対象 | 75 歳～84 歳までの男女 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 調査方法 | 調査対象者に受診券・歯科健康診査票を郵送し、歯科登録医療機関にて口腔診査（歯科健康診査）を実施 |
| (5) 調査期間 | 平成 21 年 10 月 1 日～11 月 30 日 |
| (6) 抽出方法 | 住民基本台帳より男女比、年齢構成、居住区等を考慮のうえ、無作為抽出 |
| (7) 調査項目 | 1) 問診項目
①基本属性(年齢・性)
②主観的健康状態
③食生活及び喫煙について
④歯科保健行動について
⑤口腔機能の状況について
2) 口腔診査
①現在歯の状況
②むし歯(う蝕)の罹患状況
③歯周疾患の罹患状況
④喪失歯と補綴状況
⑤口腔清掃状況
⑥その他の所見 |

II. 調査結果の概要

今回、調査対象として抽出された75～84歳の市民の被調査者は2,000人であったが、実際に受診した617人についての調査結果は以下のとおりである。

1. 対象者の属性

本調査への参加者（受診者）は617人（男性281人、女性336人）で、転居先不明等により受診券が返送された3人を除いた全体の受診率は30.9%であった。性別の受診率は、男性（35.2%）の方が女性（28.0%）より7.2ポイント高かった（表1）。

年齢別の受診者数、受診率は表2に示した。受診率は77歳と80歳がやや高く、83歳がやや低いが、全体的には年齢が上がるに従って低下する傾向が見られた。

居住区別の受診者数、受診率は表3に示した。受診率は、やや泉区が高いがその他の区ではほとんど変らなかった。

表1 受診者の性別

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
男	799	281	35.2%
女	1,201	336	28.0%
合計	2,000	617	30.9%

表2 年齢別受診者数と受診率

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
75歳	271	67	24.7%
76歳	257	87	33.9%
77歳	250	98	39.2%
78歳	219	72	32.9%
79歳	212	69	32.5%
80歳	195	69	35.4%
81歳	188	55	29.3%
82歳	188	50	26.6%
83歳	100	18	18.0%
84歳	120	32	26.7%

表3 居住区別受診者数と受診率および構成割合

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	構成比
青葉区	579	170	29.4%	27.6%
宮城野区	344	111	32.3%	18.0%
若林区	244	73	29.9%	11.8%
太白区	456	132	28.9%	21.4%
泉区	377	131	34.7%	21.2%
合計	2,000	617	30.9%	100.0%

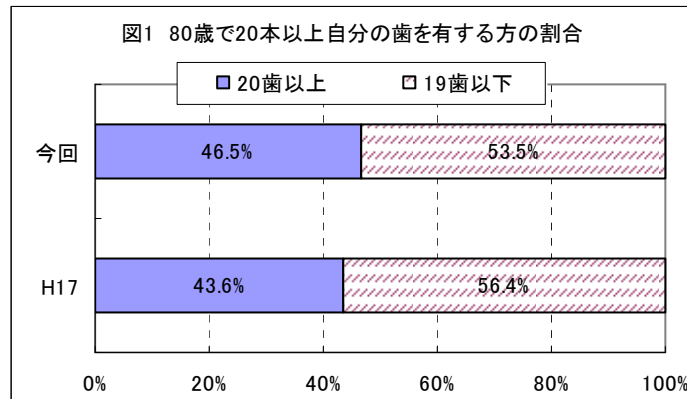
2. 歯および口腔の状況

(1) 「80歳で20歯以上自分の歯を有する人の割合の増加」の達成状況

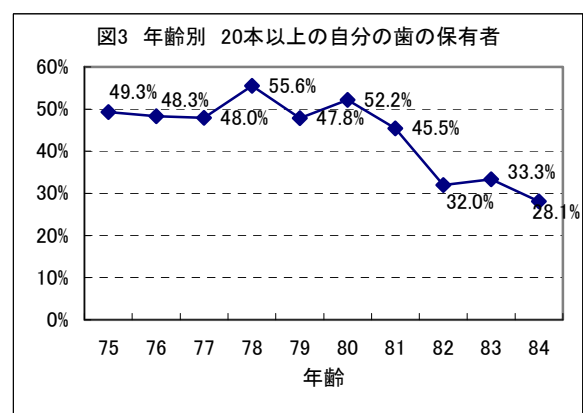
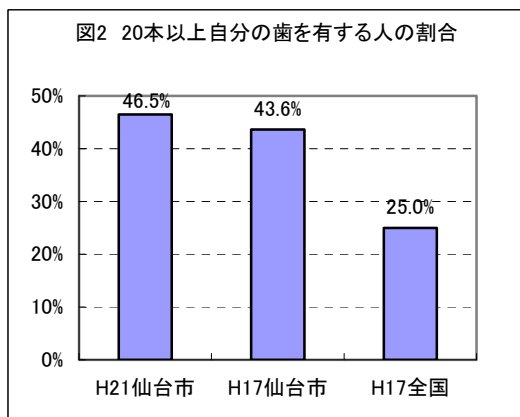
いきいき市民健康プランでは「80歳（75～84歳）で20歯以上自分の歯を有する人の増加」を指標としている。被調査者となった617人の内、20本以上自分の歯を保有している人は全体の46.5%で、平成17年度調査と比較すると2.9ポイント増加していた（図1）。

また、平成17年度に厚生労働省が行った「歯科疾患実態調査（全国）」と比較したところ（図2）、仙台市は平成17年度時点で18.6ポイント、今回調査では21.5ポイント高く、80歳（75～84歳）で20歯以上の有する人の割合は全国値の約2倍に達していた。

また、年齢別の20本以上の歯の保有者率を図3に示したが、80歳までは50%前後で推移しているが、それ以降は急激に減少する傾向が見られた。



	H17	今回	
		%	件数
20歯以上	43.6%	46.5%	287
19歯以下	56.4%	53.5%	330

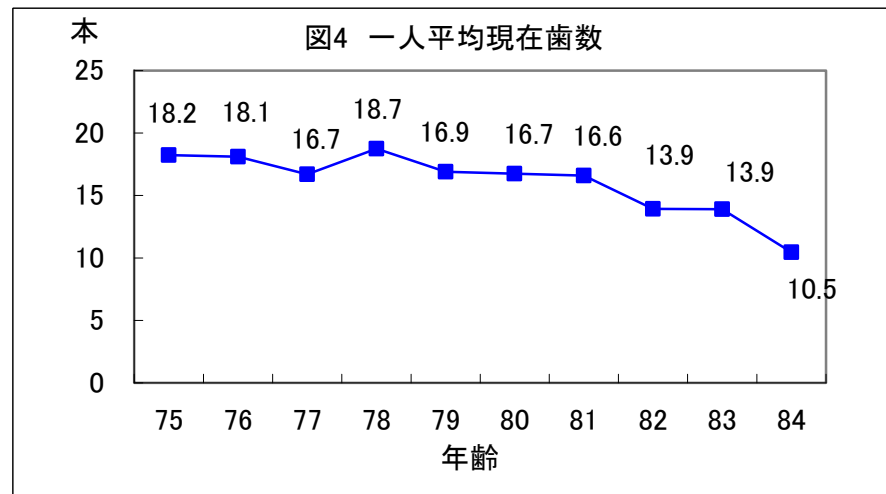


(2) 現在歯及び喪失歯の補綴の状況

被調査者全体の一人平均現在歯数は、16.8本であった。年齢別に見ると、78歳がやや高い値を示していたが、年齢の上昇とともに減少し、82歳以降は急激に下がっていた(図4)。性別では男性が17.1本、女性が16.5本となっており、男性の方が多くの歯を保有していた。

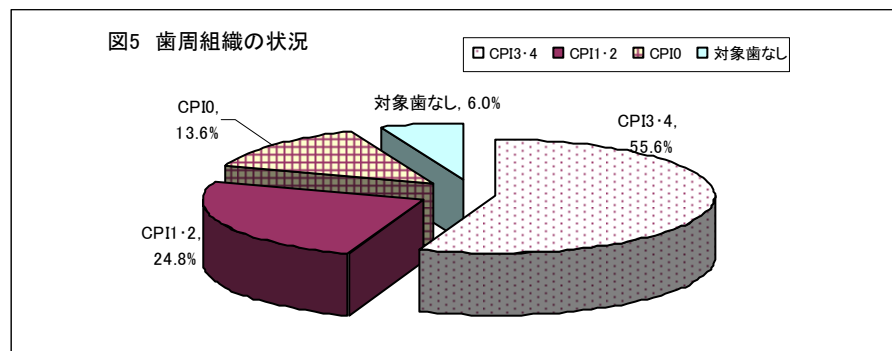
一人平均現在歯数の内訳は、健全歯4.8本、処置歯11.0本、未処置歯1.0本であった。喪失歯を義歯等で修復する補綴処置が完了している人は全体の71.2%であった。

また、自分の歯が全くない無歯顎の人は37人(6.0%)であった。



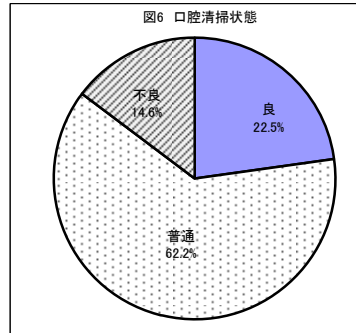
(3) 歯周組織の状況

歯周疾患の罹患状況および進行度をCPI (Community Periodontal Index) を用いて判定したところ、進行した歯周炎 (CPI 3以上) に罹患していると判定された人は全体の55.6%と半数を超えていた(図5)。性別では、男性55.9%、女性55.4%とほとんど差は見られなかった。



(4) 口腔清掃状態

口腔清掃状態を「良」「普通」「不良」の3区分で判定したところ、「良」22.5%、「普通」62.9%、「不良」14.6%であった(図6)。性別では、口腔清掃状態が「良」と判定された人は女性の方が男性よりも7.4ポイント多かった。



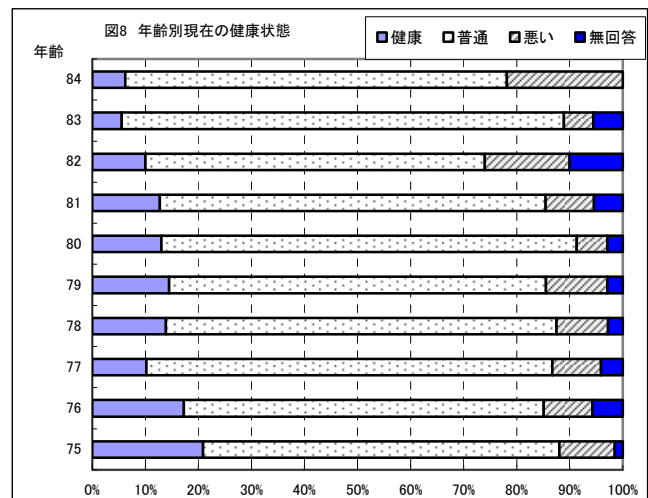
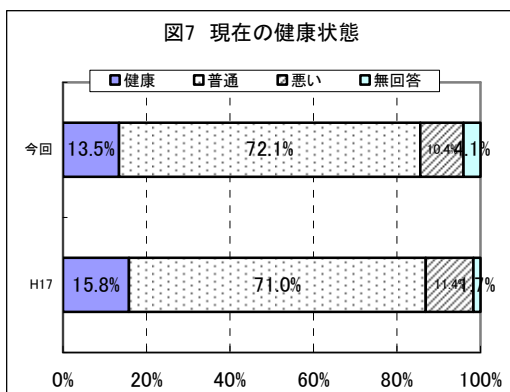
3. 歯科保健行動等

問診票より得られた主観的健康感および歯科保健行動等に関する項目別の調査結果は以下のとおりである。

(1) 現在の健康状態

現在の健康状態は「健康」「普通」と回答した人は全体の85.6%で、平成17年度調査と比較すると1.2ポイント減少していた(図7)。

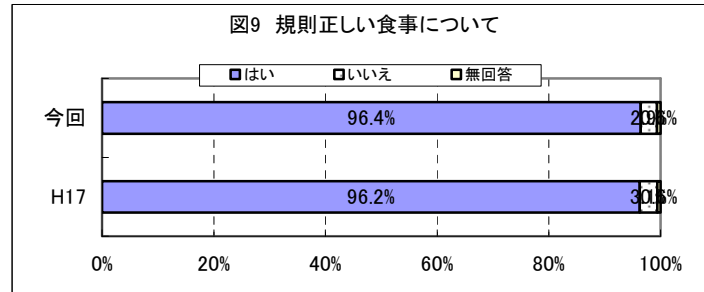
性別ではほとんど見られなかったが、年齢別にみると、82歳と84歳が80%を下回っていたが、その他の年齢では85%前後でほとんど差がなかった(図8)。



(2) 食生活及び喫煙の状況

「規則正しく食べている」と回答した人は全体の 96.4%で、平成 17 年度調査と比較すると 0.2 ポイントの増加に止まり、ほとんど変化は見られなかった(図 9)。

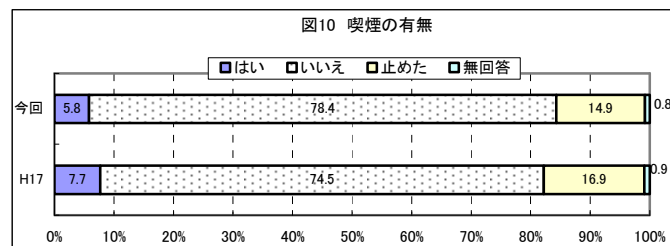
性別、年齢別の比較を行ったが、いずれもほとんど差が見られなかった。



喫煙は歯周病のリスクを高めるとされ、いきいき市民健康プランでは「喫煙が及ぼす健康影響(歯周病等)についての十分な知識の普及」を行動指標として掲げている。

今回、喫煙の状況を調査したところ、「喫煙している」と回答した人は全体の 5.8%であり、平成 17 年度調査と比較すると 1.9 ポイント減少していた(図 10)。

喫煙者率を性別で比較すると男性の方が 8.2 ポイント多かった。また、年齢別では 83 歳で喫煙者が皆無だった他は、どの年齢も数%の喫煙率となっていた。

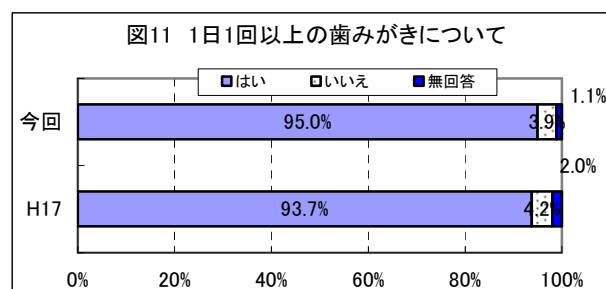


(3) 歯科保健行動等

① 口腔清掃習慣について

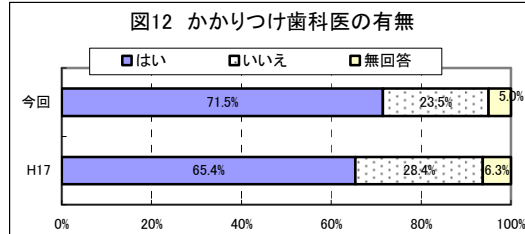
1 日 1 回以上歯みがき習慣のある人は全体の 95.0%で、平成 17 年度調査と比較すると 1.3 ポイント増加していた(図 11)。

性別では女性の方が男性よりも 4.5 ポイント高く、年齢別では 84 歳の 87.5%とやや低くなっているが、それ以外の年齢では 90%を超えていた。



② かかりつけ歯科医の有無について

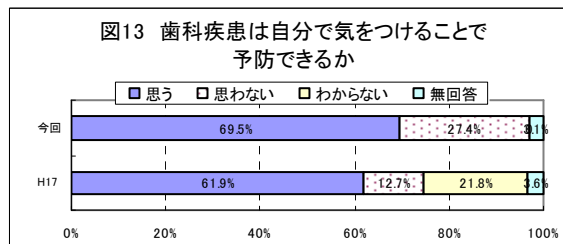
かかりつけ歯科医があると回答した人は全体の 71.5%で、平成 17 年度調査と比較すると 6.1 ポイント増加していた(図 12)。性別ではほとんど差が見られなかったが、年齢別では、80 歳を境にかかりつけ歯科医を持つ者は減少していた。



③ 歯科疾患の予防について

歯科疾患は「自分で気をつけることで予防できると思う」と回答した人は全体で 69.5%であり、平成 17 年度よりも 7.6 ポイント増加していた(図 13)。

性別ではほとんど差が見られず、年齢が高くなるに従い緩やかに低下していた。

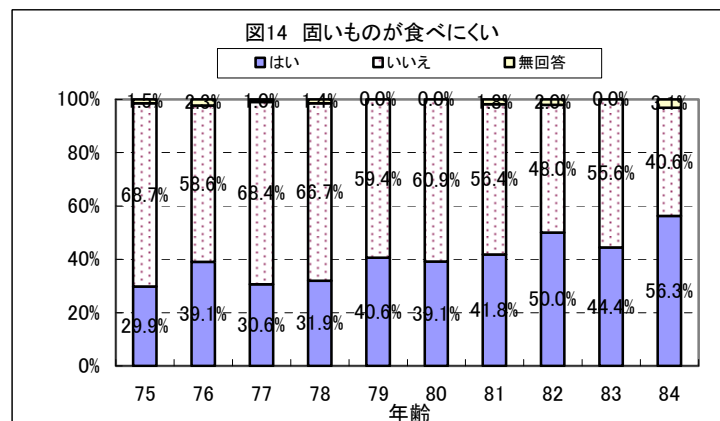


(4) 口腔機能の状況

市区町村が実施する「介護予防事業（地域支援事業）」において、介護が必要になる可能性があるとして予想される人に対して判定のために用いられている「基本チェックリスト」の 3 項目を使って口腔機能の状況を調査した。

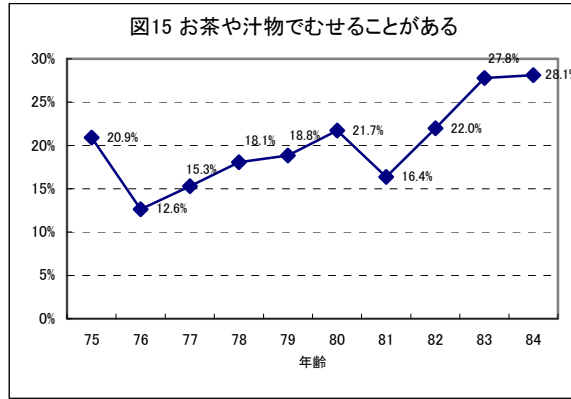
① 咀嚼機能について

「半年前に比べ固いものが食べにくくなった」と回答した人の割合は全体の 38.2%であった。性差はほとんど見られなかったが、年齢の上昇とともに「固いものも食べにくい」と回答した人の割合が多くなっていった(図 14)。



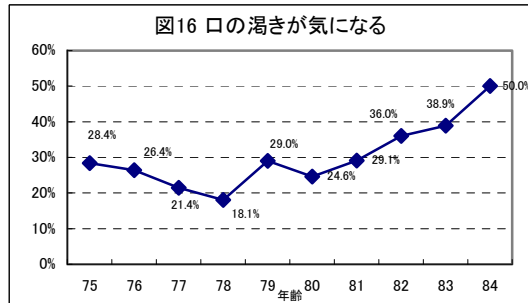
② 嚥下機能について

「お茶や汁物でむせることがある」と回答した人は全体の 18.6%で、性別では男性の方が女性より「むせる」と回答した人が 2.4 ポイント多かった。年齢別に見ると、76 歳の 12.6%を最低に、年齢の上昇とともに 84 歳の 28.1%まで徐々に増加していた(図 15)。



③ 口の渇きについて

「口の渇きが気になる」と回答した人は全体の 27.6%で、性別では女性の方がわずかに多かったが、年齢別に見ると 75 歳～78 歳までは「気になる」と回答した人は減少傾向を、79 歳から 84 歳にかけて増加傾向を示していた (図 16)。



4. 8020 達成者と非達成者の口腔状況および歯科保健行動等について

この項では、調査対象を年齢が 80 歳以上で、20 本以上の自分の歯を持つ人と(以下「8020 達成者」とする)と 19 本以下の人 (以下「非達成者」とする) に区分し、口腔状況および歯科保健行動等について比較した結果の概略を示した。

(1) 8020 達成者と非達成者の構成

8020 達成者と非達成者の構成は表 4 に示したとおりで、8020 達成者は全体の 41.1% (男性 41.5%、女性 40.7%) であった。

表 4 8020 達成者と非達成者の構成

	8020 達成者	非達成者	計
男	44	62	106
女	48	70	118
計	92	132	224

単位:人

(2) 口腔状況について

① 現在歯の状況

一人平均現在歯数は8020達成者で24.6本、非達成者で10.5本であり14.1本と大きな差が見られた。

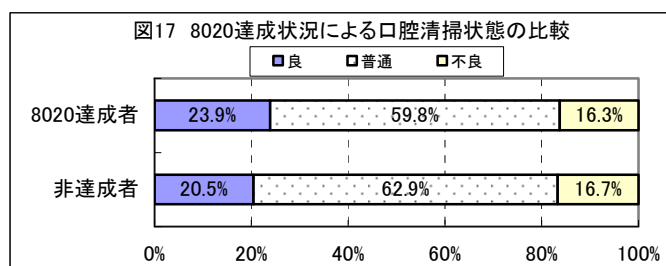
8020達成者の現在歯の状況は一人平均健全歯数8.4本、処置歯数15.0本、未処置歯数は1.1本であった。非達成者では、それぞれ、1.7本、7.8本、1.1本となっており、8020達成者と比べると、健全歯の占める比率の差が大きかった。

② 歯周組織の状況

8020達成者のうち進行した歯周炎（CPI 3以上）に罹患している人の割合は62.7%で、非達成者の47.0%に比べ多かった。非達成者の多くが、既に歯周疾患等により多くの歯を喪失した結果を反映しているものと推察される。

③ 口腔清掃状態

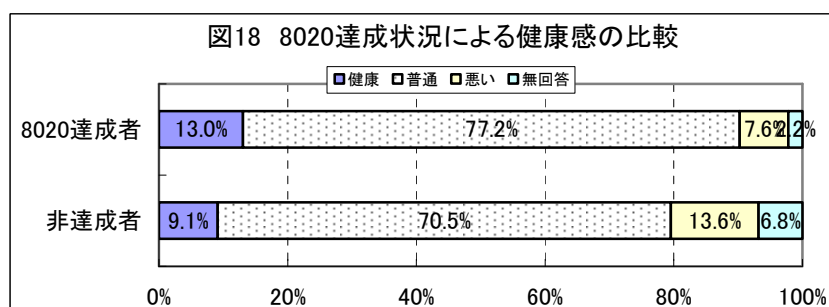
口腔清掃状態を「良」と判定された人は、8020達成者の方が、非達成者より3.4ポイント多かった(図17)。「不良」と判定された人の割合は同程度であった。



(3) 歯科保健行動等について

① 現在の健康状態

「健康」「普通」と回答した人は8020達成者で90.2%、非達成者で79.6%となっており、8020達成者の方が10.6ポイント多く、より多く歯を保有している人の方が、主観的健康感が高いという結果であった(図18)。



② 食生活及び喫煙について

8020 達成者の 95.7%、非達成者の 94.7%が「規則正しく食べている」と回答しており、その差は 1.0 ポイントと、ほとんど差はなかった。

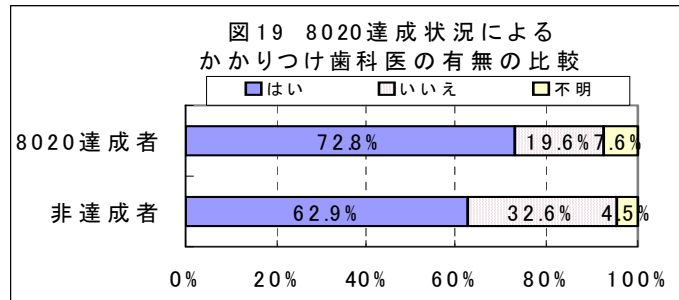
喫煙者の割合は 8020 達成者 7.6%、非達成者 7.0%と、僅かであるが 8020 達成者が高くなっていた。

③ 口腔清掃の習慣について

「1日1回以上歯みがきをしている」と回答した人の割合は、8020 達成者が 7.6 ポイント高かった。

④ かかりつけ歯科医について

「かかりつけ歯科医がある」と回答した人の割合を比較すると、8020 達成者が 72.8%であり、非達成者の 62.9%よりも 10.ポイントほど高かった(図 19)。より多く歯を残し、8020 を達成するためには「かかりつけ歯科医」による定期的な管理の必要性を示唆する結果であった。



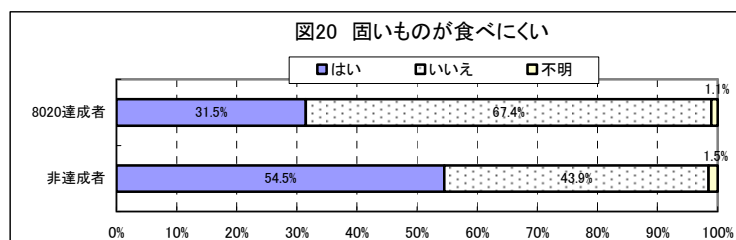
⑤ 歯科疾患の予防について

歯科疾患は「自分で予防できると思う」と回答した人の割合は、8020 達成者が 70.1%で非達成者よりも 7.8 ポイント多かった。「自分で予防できると思う」という意識が良好な歯科保健行動の定着を促進していると考えられる。

(4) 口腔機能の状況について

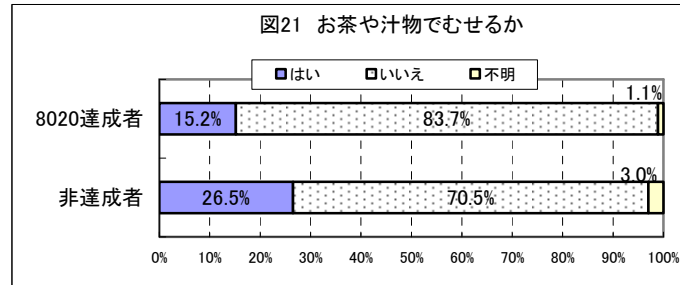
① 咀嚼機能について

8020 達成者では「固いものが食べにくい」と回答した人が 31.5%であったのに対し、非達成者では 54.5%で、両群間には有意な差が認められた ($p < 0.01$)。8020 達成者は咀嚼機能が維持されていると言える結果であった(図 20)。



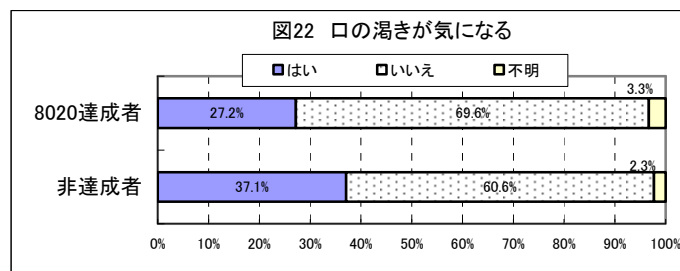
② 嚥下機能について

「お茶や汁物等でむせる」と回答した人の割合は 8020 達成者の方が、非達成者よりも 11.3 ポイント少なく、両群間には有意な差 ($p < 0.05$) が認められた。自分の歯が多く残っていることにより嚥下機能が維持されていると考えられる(図 21)。



③ 口の渇きについて

8020 達成者のうち、「口の渇きが気になる」と回答した人は 27.2%であり、非達成者の方よりも 9.9 ポイント低く、非達成者においては義歯等の装着や唾液流出量の減少等により口の渇きが助長されている可能性が推察された(図 22)。



5. まとめ

本調査において、80 歳（75 歳～84 歳）で 20 本以上の現在歯を保有している者の割合は 46.5%で、全国（平成 17 年度歯科疾患実態調査）と比較すると約 2 倍という結果が得られ、本市の 8020 の達成状況は良好で、日本歯科医師会が提唱する「8020 社会（8020 達成者が 50%を超える社会）」にほぼ到達する状況となっている。

また、今回の調査で、80 歳以上の 8020 達成者は、非達成者に比べ健康状態を「健康」「普通」と感じている人の割合が多く、また「1 日 1 回以上は歯をみがく」「かかりつけ歯科医がある」と回答した人の割合も多かった。また、8020 を達成することにより口腔機能が保持され、「固いものが食べにくい」人が少なく、「むせ」や「口渇感を感じる」人の割合も少ないことが明らかとなった。

以上から、生涯にわたり自分の歯を保持する（8020 を達成する）ことは主観的健康感を高め、食生活を豊かにするなど、高齢者の生活の質の向上に寄与することが明らかとなった。

8020達成率調査 歯科健康診査票

(提出用)

太枠の中をご記入ください。

診査日 平成21年 月 日 No. _____

氏名		住所	仙台市 区	
電話番号	-	生年月日	大正・昭和 年 月 日(歳)	性別 男・女

あてはまる回答に○印をご記入ください。

No.	質問	回答
1	あなたの現在の健康状態はいかがですか。	健康・普通・悪い
2	食事を規則正しく食べていますか。	はい・いいえ
3	一日一回以上は歯みがきをしていますか。	はい・いいえ
4	定期健診や歯石除去などの予防処置を受けているかかりつけの歯科医がありますか。	はい・いいえ
5	たばこを吸っていますか。	はい・いいえ・やめた
6	歯や歯ぐきの病気は自分で気をつけることで予防することができますか。	はい・いいえ
7	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	はい・いいえ
8	お茶や汁物等でむせることがありますか。	はい・いいえ
9	口の渴きが気になりますか。	はい・いいえ

①現在歯・喪失歯の状況(喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯には×を記入)

右	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	左
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	

健全歯数(✓) ②	未処置歯数(C) ③	処置歯数(○) ④	現在歯数②③④の合計 ⑤	要補綴歯数(△) ⑥	欠損補綴歯数(⊖) ⑦
-----------	------------	-----------	--------------	------------	-------------

欠損補綴物等の記載欄

・Br等の補綴物の状態

義歯
 ・なし
 ・あり(使用・使用していない)
 上顎(FD・PD)
 下顎(FD・PD)

⑧歯肉の状況(CPI)

CPIの判定基準

17または16	11	26または27
47または46	31	36または37

0:健全
 1:歯肉出血あり
 2:歯石あり
 3:ポケット4~5mm
 4:ポケット6mm~
 X:対象歯なし

⑩口腔清掃状態

・良好 ・普通 ・不良

⑪その他の所見 あり・なし

・歯(楔状欠損等) ・歯列咬合
 ・顎関節 ・口腔粘膜
 ・その他()

⑨CPIの最大値

(0~4)

⑧歯肉の状況(CPI)の中で一番大きな数

⑫判定区分

「1」「2」「3-a」「3-b」は、いずれか一つのみに○をつけて下さい。

- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1. 異常なし(CPI=0) | a. 歯石除去 経過観察等 (CPI=2) |
| 2. 要指導(CPI=1) | b. 歯周治療 (CPI=3または4) |
| 3. 要医療・要精検 | c. う蝕治療 (未処置歯あり) …… ③未処置歯数 |
| | d. 補綴処置 (要補綴歯あり) …… ⑥要補綴歯数 |
| | e. その他 (その他の所見あり) …… ⑪その他の所見 |

⑬. 要医療・要精検の「c」「d」「e」いずれかに当てはまる時はCPIが0または1でも⑬. 要医療・要精検です。

⑬医療機関・診査医名